女川おながわNOW

4月から香南市職員、澤田卓主査が東日本大震災復興のため、宮城県女川町へ派遣されました。

澤田主査は震災発生後に石巻市で避難所の運営サポートを行う災害支援にも参加し、震災直後の被災地の様子を知る存在でもあります。

震災から3年。再び訪れた被災地、そして女川町は彼の目にどのように映ったのでしょうか。

（不定期掲載）

▶津波の到達点に建てられた碑。次世代の人たちに向けての教訓が書かれています

■女川町の印象は？

地形的に海と山がすごく近く、漁業が盛んな町で、海側に生活圏が集中していたということもあり、居住地のほとんどが津波の被害を受けていると感じました。

ただ、町全体がチーム女川としてとして一丸で復興に取り組んでおり、着実に復興が進んでいると感じています。

■女川町ではどんな業務をしていますか？

復興推進課用地係に配属され、用地取得業務を主に行っています。係には中心部・離半島部があり、私は離半島部の担当になりました。現在は、高台造成用地の売買契約を進めています。今後は被災した浜の整備に先立ち用地交渉が開始されます。

■復興のため、全国各地から職員が派遣されてきていますよね？

本当に全国各地から集結しているような感じです。そのため色々な方言が飛び交っています。

以前より職員数もかなり増えている関係でフロアはぎゅうぎゅうですが、これが復興に携わる場所なんだと肌で伝わってきます。

■震災時に石巻市に災害派遣で滞在し、実際に被災地をご存じなわけですが…

女川町へ赴任する直前に石巻市を3年ぶりに訪れることができました。

市内を一望できる日和山という高台へも足を運びました。そこから見ると、被害が酷かった海側に山のように積まれていたがれきが無くなり、更地が広がっていました。

また、港付近の水産施設も含め、商業施設などは通常の営業ができていて、3年でここまで復興できたのかと感慨深いものがありました。

▲震災から２カ月後の石巻市日和山。がれきと化したまちに手を合わせる姿が多く見られました

「今日も復興頑張ろう」という雰囲気の中、役場内、まちの皆さんに本当に活気があり圧倒されました。

チーム女川の一員として少しでも復興のお役にたてるように、またこの経験を香南市でも活かせるように全力で頑張ります。

澤田 卓
宮城県女川町より

▼女川町では、高台移転や土地の造成が日に日に進んでいます。
かつてはここに街並みや、毎日の生活があったことは想像しがたいものがあります

市長談話室 18

これからの香南市を描く（6）

香南市の将来のあり方を示す「まちづくりグランドデザイン」。これまで、まちづくりを①土地利用ゾーニング、②沿岸まちづくり、③産業振興計画、④新庁舎周辺土地利用計画の4つの柱から検討を行い、このたび「香南市まちづくりグランドデザイン構想」としてまとめました。その内容については、地区懇談会の中でも報告させていただくとともに、完成した報告書と概要版は、市のホームページにも掲載しておりますので、ぜひご覧いただきたいと思います。また、構想についてのご意見も募集しておりますので、こちらもよろしくお願いします。

さて、今月は「まちづくりグランドデザイン」の中の2つ目の柱「沿岸地域のまちづくり」についてです。

（関連12ページ）

沿岸地域のまちづくり

沿岸地域は、合併前の旧町の中心地として古くから集落や市街地が形成され、地域の生活拠点となっている一方、人口の減少、高齢化による地域活力の低下、空き家・空き地の増加なども見られます。津波防災のまちづくり、高台移転、土地利用転換などは、まちの構造の変化やコミュニティ形成にも深く関わることから長期的な取り組みが必要になってきます。

◆防災対策とまちづくり

現在、防災・減災対策として、津波避難タワーや津波避難道、津波避難場所等の整備を進めていますが、津波被害から確実に逃れる方法として、高台移転や現在地での建物高層化等についても検討する必要があります。

◆まちづくりの進め方

昨年実施したアンケート（市内・3千人・無作為抽出）結果では、浸水予定区域の約48％の人が「高台移転を考えていない」、約33％の人が「高台移転を考えたい」でした。移転に伴う内容や条件、費用などの課題もありますので、市民の皆さまとの情報の共有化を今後一層進めていきたいと思っています。あわせて、高台（浸水予想区域外）への移転や現在地での災害に強いまちづくりなど、土地利用のパターンと地域特性を踏まえた手法の検討も行っていきます。また、モデル地区を設定し、沿岸部の土地利用と高台地区への住居移転の在り方を検討するモデルプランを作成し、その実現に向けて課題整理を行っていく予定です。

おすすめの1冊

氷川清話　勝海舟

江藤淳・松浦玲/編

坂本龍馬の師匠でもある勝海舟。私の好きな歴史上の人物の一人です。

人物評論や体験談など海舟独特の機知に富んだ表現が満載です。ブックカバーの写真（晩年の勝海舟）に目がいき、思わず購入。

4月1日より新年度がスタート！ 香南市も市政始まって以来最多となる22人の新規採用職員を迎えました。

辞令交付の後の新採研修で、市の職員としての心構えや期待することについて1時間、話をさせてもらいました。多くの時間を取って話したのは、香南市の教育行政方針でもある「コミュニケーション能力」「規範意識」「自尊心」を持ってもらうこと。そして、地域目線・住民目線を常に持ち、責任感を持って積極的に仕事に取り組んでもらいたいことなど、たっぷり話をしました。与えられた仕事をこなすだけではなく、プロ意識を持って大いに頑張ってもらいたいと願っています。